

研修報告書

呉市立豊浜中学校

浅谷 由樹

1. はじめに

私は7月24日から8月13日まで、ハワイにあるカピオラニ・コミュニティーカレッジ(KCC)での平成24年広島県英語担当教員語学研修に参加し、多くの貴重な体験をした。私はこの研修に参加するにあたり2つの目標があった。

- (1) 自分の英語力と英語教授力を改善し向上させること
- (2) 効果的な教材の開発と効果的な指導法を見付けること

私は海外研修に参加するのは初めてだったので、ハワイ訪問前はこの研修を本当に終えることができるのかたいへん不安に思っていた。しかし私はこの研修で生徒の学ぶモチベーションを高め、英語を使って表現する機会を増やすための指導法を多く学ぶことができた。また、自分の教育哲学について考える機会も得た。例えば「教師として自分の目指すものは何か、何が生徒をやる気にさせ向上させるのか。」などじっくり考えたことがなかったもので、よい機会となった。この報告書でKCCで学んだことを振り返ってみたいと思う。

2. 私の教育哲学

私は、生徒一人一人に授業で「あ、わかった!」とか「自分にもできる!」と感じてもらいたいと思っている。しかし生徒たちの達成感を増やすことは難しい。この目標を達成するためには、生徒のやる気を高め、授業中の学習や授業以外での自主学習を通して改善することが大切だと考える。したがって、授業や宿題を通して、書くことや話すことにおいて英語を使う機会や活動をもっと増やす必要がある。そのためには、生徒たちが声に出したり書いたりする活動をもっと授業に取り入れなければならない。よって、私には新しい活動を準備し、今自分が行っている授業と統合するための時間がもっと必要である。私は生徒たちに、英語を楽しく学んだり、達成感を感じたりしてもらいたいと思っている。生徒たちが協力し英語で自分を表現する練習をする機会をもっと与えることは彼らにもっと積極的な経験や態度をもたらすことと信じている。

3. KCCで学んだこと

KCCはダイヤモンドヘッドの麓に位置している。美しいサボテン庭園があり、時にはサボテンの間を駆け抜けるマングースの姿を見ることができた。また大きな芝生や美しい花々、かわいい小鳥たちなど豊かな自然を楽しむこともできた。このような素晴らしい環境に囲まれた場所で3週間学べたことは幸運なことであった。

私を指導してくださったのはMalm教授だった。彼女はとても親切で、新聞記事を利用して内容を読み取ったり聞き取ったり、絵や漫画を用いて英語でお話を書いたり、英語で討議したりと私たちが英語を使って表現する機会をたくさん提供してくださった。私にとって、第1週は英語を読む週、第2週は英語で書く週、第3週は英語で話す週であり、3週間を通して英語で考える期間であった。私たちはこの研修で、「英語教授法」「上級言語発達セミナー」「教育セミナー」「コンピュータ概論」などのセミナーを終えた。そのあと私たちは次の4つのことを完成させることとなった。

- (1) 自分の教育哲学を書くこと
- (2) 授業指導案を作り，模擬授業をすること
- (3) 英語教授に関する小研究をし，研究レポートを書くこと
- (4) パワーポイントによる研究についてのプレゼンテーションをすること

3週間でこれらの課題を完成することはとても大変なことだったが，Malm教授の助けにより，やり遂げることができた。

4．KCCで学んだ印象的な活動

4.1 Brainstorming

Malm教授の授業はBrainstormingから始まった。私たちは自分たちの日々の授業の中で感じている問題点や改善したい点などについてBrainstormingをし，模造紙にリストアップした。高等学校と中学校という違いはあるが，私たちが目指しているものには多くの共通点があり，このリストは研修を通して私たちが学ぶべきことの基本となった。Malm教授は私たちが教育哲学を書いたり，研究レポートを書いたりする際にもこのリストを教室に提示し，学んだことを日本に帰って日々の授業の中でどう生かしていくかという視点を持つように示唆した。

4.2 Feedback

私はFeedbackのプロセスに感銘を受けた。Feedbackには教師から生徒へ，生徒から生徒へといろいろなタイプのものがあつた。模擬授業の中で，実際に生徒から生徒へのFeedbackを経験した。私はこの活動を通じて，生徒に聞く能力，話す能力，考える能力を向上させる機会を増やすことができると感じた。Feedbackも生徒のやる気を起こさせる効果的な活動の一つである。

一方，私は生徒たちに練習は間違ふための時間であり，よりよくなるための時間であることも言う必要がある。生徒たちはしばしば間違ふことを恐れる。彼らは，新出単語の意味や読み方がわからないときとか，新しい文法事項を使つての文の作り方がわからないときなど，調べようともせずすぐに答えを求める。ときにはすぐに答えなければならないこともある。例えば“Just in time” feedbackは大切で，多くの場合において，生徒に例を示したりヒントを与えたりする必要がある。しかしながら，生徒が少しでも自分でやってみようとする前に機械的に答えを言つてはいけないのである。

4.3 Free-writing

私は，Free-writingは生徒の書く能力を改善する効果的な活動の一つだと思ふ。Malm教授の授業で私は，辞書を使わずに短い話を書くことを楽しんだ。話を書いた後で私たちは作品を交換しFeedbackを行った。とても興味深かつた。Free-writingの目的は「流暢さ」である。生徒は文法的なミスを気にする必要はない。自分の書きたいことを書き続けるだけである。この活動を通じて，生徒は書くことを楽しみ，やる気を高めることができる。

また，私自身Brainstormingやディスカッションの際にFree-writingをしてみても，自分の考えが明確になるのを実感した。講義や英文を読んだ後に行えば，生徒は直前に学習した表現等を使うことができるので，inputからoutputへと変えることに役立つのである。

4.4 Poster Session

Poster Sessionは大変効果的な活動である。Malm教授がPoster Sessionのやり方を説明してくださり、私はそのプロセスに興味を持った。

- (1) 生徒は2～3人のチームを作る
- (2) 生徒はbrainstormingをする
- (3) アイデアを交換し合う
- (4) もっと意見を出し合う
- (5) リサーチする必要があるインターネットや雑誌を利用する
- (6) ポスターを作り、説明する

Poster Sessionは個人でもできるしチームでもできるプレゼンテーションである。この活動を通して生徒たちは効果的な口頭によるプレゼンテーションを何度も練習することができるし、ポキャブラリーを増やすこともできる。また(読む・書く・聞く・話すの)統合された技能が必要なため、情報をキャッチするのに聞く練習をすることもできる。したがって生徒たちに(私の小さなクラスでさえ)楽しく口頭でのコミュニケーションをする機会をもっと与える良い方法である。私の授業にもこの活動を取り入れたいと思う。

5. 課外授業

5.1 ホームステイ

私は8月3日から5日までカネオヘという山の麓にある街でホームステイを体験した。ホストファミリーには4人の子どもたちがいた。彼らはみんなかわいく、親切で快活だった。そのうちの3人はヴァイオリンが弾け、毎日練習していた。1番下の子は2歳だった。彼はまだ言葉はしゃべれなかったが、表情で言いたいことを表していた。1番上の11歳の男の子は野球チームに入っていて、私たちはその試合を見に行った。試合後、海岸に行った。「もし運がよかったら、カメを見られるかもしれないが、彼らはそこでカメを見たことがない」と車の中で聞いた。大変幸運なことに私たちは3匹のカメが海を泳いでいるのを見ることができた。私たちはとても興奮し何枚も写真を撮った。それから彼らは私を他にも素晴らしい海岸や展望台に連れて行ってくれた。私は美しい自然と景色を楽しんだ。この他に、もう一つ貴重な経験をした。8月5日の朝彼らと一緒に教会に行き、日曜礼拝に参加する機会を得た。私たちはオルガンに合わせて賛美歌を歌った。礼拝の後、何人かの人々が私に話しかけてくれ、私は彼らとの会話を楽しんだ。大変有意義な時間だった。

帰国後、ホストファミリーに写真を添付してメールを送ったら、お礼の返信が届いた。彼らが日本に来ることがあれば、ぜひ我が家に滞在していただこうと思う。

5.2 興味深い場所への訪問

Malm教授は私をいろいろな場所に連れて行ってくれた。最初に訪れた場所はプランテーションヴィレッジだった。そこでは移民の歴史やプランテーションの生活、住居について学んだ。次にビショップミュージアムを訪問した。そこには多くのカメハメハ王家の展示物があった。そこではフラダンスとその意味や精神、フラダンスで使う楽器について学んだ。最後に訪問したのはワイマナロビーチパークだった。そこでは泳ぎとボディボード

を楽しんだが波の強さに大変驚いた。またコンサートやハワイの食べ物も楽しんだ。

6 . おわりに

事前説明会のとき，この研修のキーワードとして3つのCを教えていただいた。**Communication**(コミュニケーション), **Collaboration**(協働), **Confidence**(自信)の3つである。ハワイに行く前，私にはまったく自信がなかった。研修を終えた今は，少なくともやり遂げたという自信ができた。これもMalm教授や他の方々が私に英語を使うように促し，前向きな**Feedback**をくださったからだと思う。学んだ内容はもちろん，彼女たちの授業の進め方こそがこの研修で私が学ぶべきことであったと思う。私は生徒として，教師の姿勢がいかに生徒のモチベーションに影響を与えるかを実感した。この研修を通して，私は自らの授業を振り返ることができ，改善へのアイデアを得ることができた。ここで学んだことを実際の授業で生かすためにも，これからも英語や英語教育について学び続ける必要性を強く感じている。

最後に，私にハワイでの素晴らしい経験を得る機会をくださったことに対して，広島県教育委員会の方々並びにKCCの教授やコーディネーターの方々，この研修に参加するにあたりお世話になったすべての方々に感謝の意を表したい。